

大宮

THE ŌMIYA HACHIMAN

令和 5 年 (2023)

皇紀 2683 年

御鎮座960年奉祝

令和 5 年 新春号【第125号】



御鎮座960年を迎えし神苑

御鎮座九百六十年・令和5年の癸卯の新春にあたり
謹んで皇室を中心とする国家の隆昌と
氏子・崇敬者各位のご清福を熟禱申し上げます

宮司 鎌田 紀彦

令和4年の世相を漢字一文字で表す今年の漢字が「戦」と発表されました。日本漢字能力検定協会が全国から公募して最多得票の漢字を選ぶもので、1995年より始まり今年は28回目です。ロシアによるウクライナ侵攻やサッカーワールドカップ(W杯)の熱戦や新型コロナウイルスの襲来で一向に収まらないコロナ禍での物価高との戦を生活の中で体感した等、「戦」は米国での中樞同時多発テロのあった平成13年(2001)以来2度目となります。

歳末には終熄しそうな気配のあった新型コロナウイルス「第8波」が襲来しております。今まで培ってきた対策を活かしながら新年も多くの参詣の方々をお迎えして、満足感のあるお参りが出来たと喜んで下さるような神明奉仕を職員一同心掛けてまいりたいと思っております。

涼恵さんの歌手活動20周年コンサート(11月26日東京公演・28日関西公演)が行われ、東京公演にお招き頂きました。涼恵さんは神社神道の神職(巫女)であり、唄い手であり、又、シンガーソングライター、作家としても活躍中です。



記念公演の新作名は「くくり」とされており、神社新報の『杜に想ふ』には「日本書紀」より女神、菊理姫神から頂き、コロナ禍の影響もあり分断が進む今の世の中で、対極にあるものを括り付ける調和の存在を歌いたかった。又、くくりとは腹をくぐる覚悟やケデメでもある。また「聞く理」でもあつて傾聴ともいえる。又唄は祈り、今までもこれからも。と述べられています。

「御大典記念童謡唱歌」角松敏生プロデュース「心のふるさと」の発表にあたり、國大禮典研究会と國大瑞玉(OB)会が制作を担当させて頂いたときからです。丁度、奉務先の小野八幡神社(神戸市)の再建が始まり、境内のご神木(楠)の伐採にあたり、その御用材を小

生と同郷の丹波篠山市の材木店が預かれたという縁もありました。当宮でも毎年5月のわかば祭り、第二日ノ儀5月4日の午前の部で歌唱を奉納していただいております。現在はコロナ禍で中止になっており残念な事でありませう。

令和元年11月14日、大嘗祭当日祭が大祭式により斎行され、天皇陛下には一世に一度の大嘗祭が11月の中の卯の日、皇居東御苑の大嘗宮に於いて執り行われ、当宮も祭典では特別に神社本庁幣が奉幣されました。その直会では清興として唄い手涼恵さんに「蛍の光」1番から4番(4番の歌詞:千島の奥も沖繩も八洲の内の護りなり 至らんに歎しく 努めよ我が兄 恙無く、「春の小川」(渋谷川の上流、オリンピックセンターの所を流れている)の2曲(原曲)をご披露いただきました。神職の唄い手涼恵さんの益々のご活躍をお祈り致しております。

「十五夜の神遊び」に毎年奉納演奏をさせて頂いている(昨秋は11回目)「き乃はち」氏によりWabisabi Festival大宮八幡宮2022(12・2 FRI 宵宮MUSICフェス12・3 SAT 神仏の記憶、尺八の物語)が開催されました。き乃はち氏をはじめ



和のアーティストの方々を中心にライブが行われ、最後にはき乃はち氏らによって当宮をイメージした新曲「おのみや八幡」が発表されました。残念ながら4年続きのコロナ禍により、奉祝行事ができない為、年間の祭典のみは厳粛に斎行し、専ら終熄退散を祈願致しております。

本年は御鎮座九百六十年を迎えておりますが、このような状況の中では奉賛会の結成もできませんが、一昨年は参宮橋が朱塗りの新八幡橋として素晴らしく落成し、渡り初めも行いました。当宮へ通じる参詣道も昨秋には整備完了の予定がそのままとなっています。北参道には鳥居がなく、何とかこの際建立できないかと模索致しております。たところ、有り難くも毎日朝、昼、夜と3回、日参されている篤志家の方より一手建立で奉献したいとの申し出がありました。役員会にも諮り、御鎮座九百六十年の記念事業として朱塗りの八幡鳥居が建立されることとなり、併せて北参道に献燈籠(アルミ製)(五対)計十本を公募により建立することになりました。

一年間月々の神事を奉仕しつつ、神人共に楽しめる時を増やし八幡大神様のご神威の発揚に努め、今後とも神明奉仕の誠を尽くして多く参拝者の方々をお迎えしたいと、七巡目の卯歳の年の始めにあたり思っております。

(令和4年12月16日記)

明けましておめでとうございませす

令和五年癸卯歳正月

二日 小笠原流除魔神事 葦目の儀・大的式



本年令和5年は鎮守府將軍源賴義公が奥州平定を奉謝し、康平6(1063)年、この地に当宮を創建されてより九百六十年の佳年にあたりませす。その幕開けとなる元日午前零時、宮司の打ち鳴らす初太鼓が境内に響き渡り、新春を祝うご参拝の皆様長い列が拝殿前へと続ませす。拝殿内では、宮司奉仕により歳旦祭併せて新春厄除開

新春献燈提灯奉納のご案内

新春の期間、1月1日～2月3日まで、皆様のお名前を入れた献燈提灯を掲出させていただきます。新型コロナ禍のなか、世の中が少しでも明るくなるように祈念してご社頭を賑々しくお飾りませす。

運初大祈願祭(一番祈願祭)を齋行、皇室国家の弥栄、五穀豊穰と国民の安寧を祈念致ませす。次いで新春初祈願祭が2月3日の節分まで奉仕ませす。

2日午前には小笠原流宗家による**新春除魔神事・葦目の儀・大的式**が奉納ませす。葦目の儀では**墓目鳴鑼矢の「ヒュー」という霊妙な風切り音により魔障を退散させ、弓威により一年の邪気を払います。**3日には、皇位の**大元始**を寿ぐ**元始祭**を齋行。こうして大宮八幡宮の一年が始ませす。

毎月・お朔日参りを致ませす

| 令和5年 新春の祭典と主な行事 | |
|-----------------|--------------------------|
| 1月1日 | 歳旦祭併せて新春厄除開運初大祈願祭(一番祈願祭) |
| 1月2日 | 小笠原流葦目の儀・大的式 |
| 1月3日 | 元始祭 |
| 1月7日 | 昭和天皇祭遙拝 |
| 1月15日 | 古神札焼納祭(とんど焼き) |
| 1月25日 | 初天神大祭「大宮天満宮」 |
| 1月26日 | 文化財防火デー消防演習 |
| 2月3日 | 節分祭 鳴弦の儀・豆撒神事 |
| 2月5日 | 初午大祭「大宮稻荷神社」 |
| 2月11日 | 紀元祭 |
| 2月23日 | 天長祭 |
| 2月25日 | 梅花祭「大宮天満宮」 |
| 3月21日 | 春季皇霊祭遙拝 |
| 3月下旬 | 大宮八幡桜まつり |
| 4月上旬 | 神武天皇祭遙拝・本宮遙拝 |
| 4月3日 | 昭和祭・春の弓道奉納射会 |
| 4月29日 | 御鎮座九百六十年奉祝 |
| 5月3日 | 大宮八幡宮わかば祭り(春の大祭) |

| 第一日ノ儀 | |
|-------------------|------|
| こともの祭り・稚児行列・はしご乗り | (3日) |
| 第二日ノ儀 | |
| 植樹祭(苗木配布) | (4日) |
| 当日祭(尚武祭) 祈年祭 | (5日) |

| 方南南地区 | |
|-------|-------|
| 丸山 光男 | 齊藤 恵一 |
| 内山 誠 | 山崎 政義 |
| 相川 雄一 | 方南南地区 |
| 岩崎 太良 | 齊藤 美夫 |
| 鈴木 憲章 | 岩田 和保 |
| 岩田 一豊 | 細野 修三 |

| 方南北地区 | |
|-------|-------|
| 尾崎 雄次 | 成宗 白山 |
| 安藤 雄次 | 岩田 和保 |

| 大宮地区 | |
|-------|------------|
| 荒井 昭一 | 古屋 進 |
| 五本木 勝 | 末柄 哲明 |
| 根岸 政明 | 大宮八幡宮敬神婦人会 |
| 大宮地区 | 会長 鎌田 民枝 |

| 松ノ木地区 | |
|------------|----------|
| 松川 邦夫 | 井川 敏之 |
| 小川 次郎 | 松島 穰 |
| 大宮八幡宮敬神婦人会 | 会長 鎌田 民枝 |

| 和田東地区 | |
|-------|-------|
| 梅田 清彦 | 横尾 信彦 |
| 佐野 晃央 | 岩船 守男 |
| 笠原 紀一 | 玉村 恭男 |
| 藤枝 宏友 | 内山 誠 |
| 瀨沼 宏章 | 玉村 恭男 |
| 末柄 哲明 | 鈴木 憲章 |
| 丸山 光男 | 葉梨 俊郎 |
| 丸山 光男 | 葉梨 俊郎 |
| 池田 純一 | 森川 麗子 |
| 豊田 麗子 | 藤枝 宏友 |
| 和田西地区 | 和田東地区 |

謹賀 新年
令和五年元旦



令和5年 幸せ祈る初詣

新型コロナウイルス感染症対策にご理解とご協力を



新春を迎え、当宮に初めてお詣りされる日があなたの初詣!!(三が日を避けて分散型の初詣にご協力下さい。)
尚、新春初祈願祭は二月三日の節分までご奉仕致します。

境内・授与所では

お出かけ前に検温、マスクの着用をお願い致します。

手水舎では、流水での手水をお願い致します。
(但し7日より)

お札、お守りは例年の通り授与所でお頒ち致します。
授与品は授与品番号をお申し出ください。
ご朱印は書き置いたものをお渡し致します。

振る舞い酒は中止致します。

拝殿前混雑緩和のため、「一方通行」にご協力ください。

職員はマスクを着用させて頂きます。



手水舎
(但し7日より使用)

ご祈禱・昇殿参拝では

受付

受付所には、窓口に透明シートを設置しています。
また、受付後の検温にご協力ください。
昇殿前の手水は行わず、手指の消毒を以てこれに代えさせて頂きます。

拝殿へ

臨時の外拝殿参列席を増設致しております。適度な間隔を保ちながら、例年同様のご昇殿が可能です。
暖房機を稼働させますが、通気をよくするため、ご社殿の窓を開放させて頂きます。

祈願祭

ご社殿内での密を避けるため時間を短縮して、巫女舞はありませんが、大御恵をお授けする「息長の鈴おきながによる鈴振り神事」を行います。
また、多くの方が手を触れる玉串は使用せず、皆様にはご一緒にご拝礼頂きます。

お札・直会

ご神札・ご神饌のお渡し所では、混雑を避けるため、職員の誘導にご協力をお願い申し上げます。
ご予約参拝以外、お札にお名前は入りません。

ご祈願祭後の清涼殿での直会はありませんので、ご自宅にて、ご神饌としてお渡しするご神酒をお受けください。



臨時参列席



鈴振り神事



ご神札・ご神饌お渡し所

大宮八幡宮の大神様のご加護を戴いて、健康で明るい1年となりますようお祈り申し上げます。

大宮八幡宮 早春の行事

新春恒例の除魔神事、 墓目の儀・大的式



初春の年頭にあたり、恒例の弓の除魔神事である**墓目の儀・大的式**が、小笠原流宗家と一門の方々により、1月2日午前10時に行われます。矢先につけた臺蛙に似た鏑の形を**墓目**といい、射ると「ヒュー」という霊妙な音がして魔障を退散させるといわれています。大的式は、約1500年前、清寧天皇の御代に射を行ったとの日本書紀の記述に基づく、公家・武家に伝わる重儀であり、いずれも当宮の新春恒例の天下泰平・国家安泰を祈念する弓始めの神事です。

古神札焼納祭(とんど焼き)齋行

小正月の伝統行事、**古神矢・古神札等焼納祭(とんど焼き)**が、1月15日睦月次祭に続いて齋行されます。古く宮中では小正月に清涼殿東庭で古書を焼く左義長の儀式が行われました。当宮ではこの故事に基づき、社殿にて**睦月次祭**に併せて**焼納奉告祭**を行い、続いて午前11時半より拜殿前特設齋場にて**焼納祭**を斎行します。参拝者の皆様がお納めになった正月飾りをはじめ

とんど焼きにご協力をお願い

ご神札等をお納め頂く際に全て点検・選別させて頂き、**神社関係以外のもの・燃えないもの・有毒物質の発生恐れのあるもの(プラスチック製品等)・包装紙**は、その場でお持ち帰り頂いております。
◆**お守り・古神矢・古神札類(他の神社のもの)**も(及び正月飾りのみお預かり致します。
◆人形類は、別途社殿におきまして**人形感謝祭**を齋行してからお納め頂きますので、直接祈願受付所へお申し出下さい。但し、ぬいぐるみはお預かりできません。

大宮天満宮初天神大祭



1月25日午前10時より**初天神大祭**が齋行されます。御祭神であり学問の神様である菅原道真公に学業成就・

として、ご神札、お守り、守護矢、注連縄等が齋場に積み上げられ、まず古式に則り**火鑽神事**が行われ、熾された浄火により**点火**。燃えさかるお焚き上げの忌火を前に宮司以下神職が**大祓詞**を奏上、参列の皆様をはじめ氏子崇敬者各位のこの一年の除災招福を祈ります。また境内では、当宮敬神婦人会(りんどう会)により**厄除ぜんざい**が浄火によって炊かれ、振る舞われます。



文化財防火デー消防演習

技芸上達を祈願します。また、梅の香かおる**梅ヶ香御守**が社頭にて特別に授与されます。
昭和24年1月26日、世界最古の木造建造物である奈良・法隆寺の金堂で火災が発生し、壁画の多くが焼失しました。貴重な文化財が失われる事態を防ぐため、この日は**文化財防火デー**と定められ、消防署の指導のもと、**消防訓練**を行います。当宮の自衛消防隊・杉並消防署・杉並消防団第2分団により毎年実施されます。午前10時、御社殿より**出火**を想定して通報連絡、避難誘導、貴重品の持ち出し、初期消火等の訓練が行われ、社殿への**一斉放水**が大宮幼稚園園児たちの見守る中、実施されます。



成人奉告祭ご案内

新年を迎え新たに成人したことをご神前に奉告し、神明のご加護のもと社会の一員としての自覚を新たに**成人奉告祭**を随時ご奉仕しています。ご祈願の**新成人**の皆様には宮司揮毫の干支絵馬を特別授与しております。新成人の皆様のご参拝をお待ちしております。

新春初祈願祭のご案内

元旦の午前零時、その年最初の祭典である歳旦祭に併せて「**新春厄除開運初大祈願祭(一番祈願祭)**」が宮司奉仕により執り行われます。この祈願祭は、予め予約申込を頂いております。引き続き午前1時より氏子・崇敬者の皆様の新しい年のご繁栄をお祈りする**新春初祈願祭**を行っております。ご家庭や職場の皆様のご祈願に際して、2月3日の節分まで随時ご祈願祭をお受けしております。



また左記の時間の祭典及び、新春奉納行事などの参拝の際は終了までお待ち頂く場合がございますので、詳細は社務所までお尋ね下さい。

1月3日午前9時 元始祭
1月15日午前10時 月次祭

企業団体の祈願祭も

企業・団体様の仕事始めに合わせて、更なるご発展を祈る祈願祭もご奉仕しております。祈願祭にはご代表様・従業員の皆様お揃いでご昇殿頂きます。ご祈願を受けられ清々しい仕事始めと致しましょう。
新春初祈願祭に限り、社頭の申込書に必要事項をご記入の上、事前申込み頂きます。※新春初祈願祭では事前申込みの方のみご神札に祈願名と祈願者名を浄書させていただきます。

節分祭(鳴弦の儀・豆撒き)

立春の前日の節分は四季の変わり目の中でも特に重視されてきました。悪疫邪気を追い払う追儺神事は中国より渡来したもので、『続日本紀』に文武天皇の御代に疫病を鎮めるために行われたとあり、我が国でも古来より行われていました。当宮の節分祭では、宮中の例に倣い桃弓・葦矢で「天・地・人」に潜む魔を射る除魔神事を行い、次いで社殿前にて宮司により妖魔を祓う鳴弦の儀が行われます。その後、鬼のお面をつけた当宮幼稚園園児が参加して行われる豆撒き

神事も微笑ましい節分の行事として親しまれています。



大宮稲荷神社初午大祭

2月5日午後1時より大宮稲荷神社前の和銅4年の初午の日に京都伏見の峰に稲荷大神が降臨されたという故事により、全国の稲荷神社で初午祭が斎行されています。百数十本の鮮やかな朱色の初午のぼりが立ち並ぶなか、のぼり奉納者



氏子・崇敬者の参列のもと祭典が斎行されます。また、兼務社の堀ノ内熊野神社・成宗白山神社・尾崎熊野神社・境外社の谷中稲荷神社でも執り行われます。

初午のぼり奉納募集

お稲荷様は、商売繁盛・家内安全のご利益のある神様です。本年も、左記により商売繁盛・家内安全等を祈願する「朱色のぼり」を大宮稲荷神社のご社頭に奉納賜りますようお願い申し上げます。

一、朱色のぼり 一口三、〇〇〇円
(できましたら二対二口以上でお願い致します)
のぼりには、ご氏名(又は会社名)を入れさせていただきます。



紀元祭並びに檀原神宮遙拝

2月11日は建国記念の日(紀元節)で、全国各地で我が国の建国を寿ぐ諸行事が行われます。当宮では午前10時より紀元祭が斎行され、皇室国家の繁栄・国運の隆昌、世界の平和をご祈念申し上げます。引き続き清涼殿2階の特設会場で神武天皇をお祀りする檀原神宮を遙拝します。



天長祭並びに皇居遙拝

2月23日は今上陛下の御誕生日にあたり、陛下の長寿や国民の平安を祈る天長祭が午前10時より斎行されます。次いで清涼殿2階に設けられた特設齋場にて皇居遙拝並びに聖寿の万歳を執り行います。



梅花祭

2月25日は天満宮の御祭神である菅原道真公のご命日にあたり、梅の花をこよなく愛でた道真公を偲び梅花祭が斎行されます。梅が枝、梅花米がお供えされ、諸願成就が祈念されます。



勧学祭・ランドセルお祓い

4月に小学生になる子どもたちが、子育て八幡様のご加護を戴き、6年間の学業成就や学校生活の充実、交通安全を祈願する勧学祭を斎行し、これから毎日背負うこととなるランドセルをお祓いします。小学校への入学は大きな人生の節目です。ご神前にてランドセルのお祓いを受け、心身共に清々しい気持ちで明るく元気に新学期を迎えましょう。



大宮八幡桜まつり開催

桜の開花する3月下旬から4月上旬に合わせて、大宮八幡宮を中心とする和田堀公園(旧境内)一帯では善福寺川沿いの約700本の桜が一斉に咲き誇ります。

す。期間中の土曜・日曜は午後8時まで開門し、大宮八幡桜まつりを開催。夜間参拝と桜満開の和田堀公園への通り抜けができます。



新春厄除祈願祭のご案内

厄年は、古来人生の節目として特に気をつけなければならぬとされている年回りです。厄除けのお祓いをお受けになり、清々しい一年に致しましょう。

令和5年厄年表(数え年)

| | 前 厄 | 大 厄 | 後 厄 |
|-----|-------------|-------------|-------------|
| 男 性 | 平成12年生(24歳) | 平成11年生(25歳) | 平成10年生(26歳) |
| | 昭和58年生(41歳) | 昭和57年生(42歳) | 昭和56年生(43歳) |
| | 昭和39年生(60歳) | 昭和38年生(61歳) | 昭和37年生(62歳) |
| 女 性 | 前 厄 | 大 厄 | 後 厄 |
| | 平成18年生(18歳) | 平成17年生(19歳) | 平成16年生(20歳) |
| | 平成4年生(32歳) | 平成3年生(33歳) | 平成2年生(34歳) |
| | 昭和63年生(36歳) | 昭和62年生(37歳) | 昭和61年生(38歳) |
| | 昭和39年生(60歳) | 昭和38年生(61歳) | 昭和37年生(62歳) |

※大厄の前年は前厄、後年は後厄にあたります。厄年に限らず、除災招福の厄除祈願を受けることができます。

杜の話題

大宮八幡祭り(秋の大祭)

新型コロナウイルス禍が3年目を迎へ、本年こそは秋祭りの空気を復活させようと、できる限りの感染症対策を講じた上で行われた大宮八幡宮祭り(秋の大祭)では9月15日に例祭併せ新型コロナウイルス大禍終熄退散祈願が斎行され、皇室・国家の弥栄、併せて新型コロナウイルスの終熄退散を祈願致しました。また神社本庁より献幣使として東京都神社庁小野貴嗣庁長(小野照崎神社宮司)が参向され、**神社本庁幣を奉幣**、祭詞を奏上されました。また16日には、若宮八幡神社・白幡宮例祭を斎行し、祭典終了後には清涼殿貴賓室にて、「**八幡太郎義家公御尊像**」に拝礼致しました。18日には**氏子奉幣祭**を斎行。大宮・方南南・方南北・和田東・和田西・松ノ木の6地区の氏子より寄せられたご浄財が**氏子幣**として大前に奉獻され、奉幣使玉村恭男責任役員が氏子祈願詞を奏上し、五穀豊穡の感謝と氏子地域の安寧をお祈り致しました。同日午後1時には、小笠原流宗家による弓の神事**三三九手挟式**が奉納されました。本年は、過去2年間に渡ってコロナ禍の為に止となっていた神振行事の一部が感染症対策を徹底した上で奉納さ



れました。神輿の合同宮入りは本年も中止となりましたが、松ノ木睦会、泉南睦会の神輿の社参が行われ、境内は秋祭らしい賑やかな雰囲気になりました。

国際平和デー 一分間報鼓

9月21日は国連が定めた**国際平和デー**にあたり、宗教界では各会各派の垣根を超え世界の平和と世界の国々の連帯を祈念し、全国の社寺や教会、公園で鐘や太鼓が打ち鳴らされました。当宮にても正午より一分間、祈りの報鼓として大太鼓を打ち鳴らし、職員や参拝者が黙祷を捧げました。

第22回十五夜の神遊び

昨年の十五夜(旧暦8月)は9月10日で、大宮八幡祭り(秋の大祭)より前にあたる為、栗名月とも称される10月8日(旧暦9月13日)の十三夜に**第22回十五夜の神遊び**を斎行致しました。夕刻6時より約1300基の竹灯籠に神職関係者等の手によつて火が点され、**十三夜祭**が斎行。本殿では雅楽「**陪臚**」が、神楽殿では「**浦安の舞**」が奉奏されました。引き続き神楽殿にて**月の音舞台**が開かれ、尺八奏者**き乃はち氏**により新型コロナウイルス感染症終熄を祈念して演奏が奉納されました。



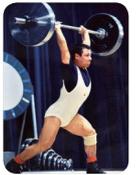
三宅義信氏来宮

10月12日、重量挙げ金メダリストの**三宅義信氏**が来宮しました。三宅氏は昭和

39年の東京オリンピックで金メダルを獲得、昭和43年のメキシコシティオリンピックでは連覇を達成するなど顕著な功績を残されたオリンピックであり、当日は**豊饒**とした様子で宮司と懇談、正式参拝のち境内を巡り、当宮弓道場で稽古の様子を見学しました。

中学生職場体験

当宮では近隣の中学校の**職場体験**を受け入れており、9月5日から7日には大宮中学校2年生女子2名、10月5日から7日には松ノ木中学校2年生女子4名が参加しました。神職の指導により白衣袴姿で、朝拝に参列。境内の説明から掃き掃除、授与所でのお守りの授与、大祓詞の書写、紙垂切り体験など、神社でしかできない多くの経験をしました。最終日には装束を着けて記念写真を撮影しました。



全国氏子青年協議会正式参拝

10月15日、全国氏子青年協議会が当宮を正式参拝し、鈴木登代秀会長以下21名が参列しました。終了後には当宮総合結婚式場清涼殿にて懇親会が行われました。



一人のお宮奉仕 御境内清掃奉仕

全国各地の神社仏閣にて清掃奉仕活動を展開している**一人のお宮奉仕**の活動が11月8日に行われました。正式参拝の後、普段は立ち入ることのできない御境内をはじめとした境内の清掃奉仕活動を行いました。午後には河野権禰宜による講話を受け、その後懇談会が開かれました。



全国八幡宮連合 第41回研修会

全国八幡宮連合の**第41回研修会**が、コロナ禍で3年越しで11月8日から9日にかけて福井県本部の当番で開催され、当宮より宮司、鎌田権禰宜が参加しました。初日は、福井県あわら市のホテルまつや千千において、東京大学名誉教授・舟津神社(福井県鯖江市)宮司橋本政宣氏の講演を拜聴し、引き続き行われた懇親会で親睦を深めました。9日には、大塩八幡宮を正式参拝し、次いで大瀧神社を参拝しました。昼食後、賀茂神社(宮司廣部重紀)を参拝し、福井駅経由小松空港より帰途につきました。

大宮幼稚園園児画展

大宮幼稚園年中組の園児たちの「大きくなったら」をテーマにした91点の作品が、神門南側回廊に10月30日より11月30日まで展示されました。園児や父母たちが、自分やお友達の描いた作品を鑑賞していました。



北参道鳥居基礎工事開始

御鎮座960年記念事業として計画されている北参道鳥居の基礎工事着工にあたり清祓式が斎行されました。その後の工事では当宮が古代より聖域であったことを示す土器の破片が発見されました。



社事務所の神棚に新しいご神札をお祀りして心を新たに新春を迎えましょう。



右 大宮八幡宮神會
左 天沼皇大神宮
お札のお礼
お神様の様
伊勢荒神
氏お三



神宮大麻頒布式並びに氏神神社神符等奉戴式

11月11日、初春を迎えるにあたり氏子崇敬者・立正佼成会会員の方々にお頒かちする神宮大麻頒布式並びに氏神神社神符等奉戴式が斎行されました。藤枝責任役員、玉村責任役員、兼務神社役員、立正佼成会神札頒布責任者の森川順子様、中山然子様のご参列のもと、ご神前にて神宮

全国敬神婦人大会東京大会が明治神宮会館で行われ、全国より600名を超える敬神婦人会の会員が出席、盛大な催しとなりました。都敬婦連の会長も兼任している当会鎌田会長が議長を務め議事進行を行いました。りんどう会役員も一般受付の応対を助勢しました。



9月11日、秋の大祭を控えて御垣内の清掃が行われました。鎌田会長以下14名の会員の手により隅々まで掃き清められました。また、9月27日に第72回



りんどう会だより



庭積机代物

秋の爽りに感謝 新嘗祭
11月23日午前9時より、新穀を八幡大神様にお供えし五穀豊穡を感謝する新嘗祭が宮司以下祭員奉仕により大祭式にて執り行われました。責任役員、総代、りんどう会役員、氏子青年会役員、奉納者らの参列のもと斎行され、当宮幼稚園児らが園内の稲田で丹精込めて育てた初穂や、サミット(株)、(株)J.A.東京中央セレモニータウンなど、氏子崇敬者の篤志の方々から献納された穀物や野菜果物などが庭積机代物として大前に献じられました。

例年十五夜の神遊びに奉納演奏を頂いているき乃はち氏が所属する(株)ワビサビエンターテインメント主催のコンサート*Wabi Sabi*フェス in 大宮八幡宮2022が、当宮総合結婚式場清涼殿で開催されました。まず12月2日に宵宮*MUSIC*フェスが、12月3日



第44回 杉並大宮菊花展受賞者
宮司賞 国華船屋 松尾 和雄
杉並区長賞 丸山方工 青木 弘次
杉並大宮菊の会会長賞 国華幸運 吉田 晴美
大宮八幡宮責任役員賞 天女名所 吉田 光治
審査委員長賞 彩胡銀河 吉田 光治
京王電鉄賞 精興右近 庄司 衛
サミット賞 久米美桜 窪田 桂
みどりの会会長賞 国華金山 山田 恭市
金賞 岸の天守閣 櫛田 晃一
金賞 彩胡武蔵厚黄 岸の六歌 吉田 晴美
協賛賞 彩胡武蔵厚黄 安濃きみ子
新人賞 倉本 美香
新人賞 泉郷夜桜 宮川香奈枝

き乃はちコンサート

第44回 杉並大宮菊花展
10月29日より11月23日まで第44回杉並大宮菊花展が開催されました。11月5日には杉並大宮菊の会主催のもと審査会が行われ、宮司賞以下が選定されました。第44回杉並大宮菊花展表彰式は12月16日に執り行われました。

ロケこもこも
9月2日 BS朝日「辰巳琢郎の家物語」オープニング撮影
11月2日 テレビ朝日「じゅん散歩」撮影
毎月お朔日参りには 月代り御幣守護を!!
当宮では古くより朔日(二日)、十五日に月参りをされる方が多く、こうした方々に年間を通じて八幡大神様のご神威をお受け頂くこと、毎月の朔日祭に併せてお朔日参り大御幣振り神事のご祈願を奉仕して月代りの御幣守護を授与致しております。
月毎にお申し込みの場合は初穂料三千元、年間一括でお申し込みの場合は初穂料三万円にて斎行致しております。

には演奏者、奉納者が本殿での正式参拝ののち、神仏の記憶、尺八の物語と題した劇が上演され、虚無僧尺八のオープニングアクトから始まり、き乃はち氏の尺八の生演奏、喜多村緑郎・一郎氏による朗読、舞によって来場者を魅了しました。大宮八幡宮の新曲も発表されました。

10月9日、当会井川会長が会長を務める東京都氏子青年協議会の創立55周年記念大会が銀座東武ホテルにて開催されました。小野貴嗣、東京都社庁庁長、鈴木登代秀、全国氏子青年協議会会長、鎌田民枝、東京都敬神婦人連合会会長、当宮宮司をはじめ、ご来賓の皆様がご越しになり、盛大な催しとなりました。閉会後に記念祝賀会が開かれ、新橋の芸者衆による清興が行われました。
12月25日には、年末恒例の門松づくりが行われ、新春を迎える準備を整えました。

氏子青年会だより



大宮八幡宮 第9回フォトコンテスト 入選作品発表

金賞



『枝垂れ桜と燈籠』
濱田文夫

審査委員長賞(優秀賞)



『ビタミンカラー』
藤原悦子



第9回大宮八幡宮フォトコンテストが開催され、7月31日までに大宮八幡宮の四季折々の風景や、祭礼行事を写し撮った19名、65点の作品が寄せられました。8月18日に、杉本恭子審査委員長をはじめ、宮司・審査委員各位の厳正なる審査の結果、最優秀作品1点、優秀作品1点ほか各賞が選出されました。また、10月8日には正式参拝の後、選考作品特設展示会場にて当日欠席された杉本審査委員長に代わり宮司より受賞者へ総評、各作品の講評が発表された後、大宮八幡宮清涼殿「亀の間」にて表彰式が行われました。尚、当日は夕刻より第22回十五夜の神遊び(十三夜祭)が行われ、受賞者の方々は秋の夜空に昇る月灯りと竹燈のほの灯りに照らされた境内を散策、しばしの撮影会を楽しみました。

銀賞



『お参りだってソーシャルディスタンス』
小竹秀雄

銅賞



『たそがれどき』 早川幸子

銅賞



『江戸の美技に酔いしれる』
北野早百合

銅賞



『疫病退散』 高山敏郎

銅賞



『懸命の火起し』
岡本洋三

銅賞



『心に祓いの纏』
笑い龍 小川明美

銅賞



『雪やどり』
高柳寛也

銅賞



『浴衣でルンルン』 伊藤美保子

第10回 フォトコンテスト 作品募集中

当宮の自然や行事風景を、プロ・アマ問わず写真愛好家の方々の目で写し撮って、その作品を八幡大神様にご奉納頂きます。大宮八幡祭り(秋の大祭)期間中に展示し、ご参拝の皆様楽しんで頂きたく、昨年に引き続きフォトコンテストを開催致しております。

応募期間 令和4年8月1日～
令和5年7月31日

募集サイズ: 2L・4ツ切サイズ

大宮八幡宮に係った作品であれば、風景・人物・行事等テーマは自由です。但し、各神事での撮影禁止事項をお守り下さい。応募作品は一人につき5点までです。詳細は、社頭やホームページ上に要項をご確認下さい。

協力写真店

フォトグラフ三光堂(大宮八幡宮入口)
カメラハウス本店(久我山)

※入賞作品の著作権は応募者本人に帰属しますが、使用权は主催者に帰属するものとし、展示や当宮の出版物・広報・インターネット等に無償で使用させて頂きます。(※各媒体掲載時には、氏名のみを掲載させて頂きません。)

初宮詣芳名(敬略)

(令和4年7月21日～11月20日)

お子様のお健やかな成長をお祈り致します

- 大越清月 江藤蒼人
- 原口七海 新島緋夏
- 木藤暖 八木真圭
- 金森葵愛 門井里紗
- 西村康平 久保田琥陽
- 上野莉瑚 永島千聖
- 川上結實 森 葉
- 及川立珠子 小田玲
- 関川海楽 糸川十叶
- 黒岡幹 小郷晴汰
- 唯島由風 岩淵咲陽
- 平川毅 沼虎未來
- 坪田千咲 久保湖乃
- 岡本悠助 青柳咲良
- 社領光琴 櫻村愛
- 柴田虎丞 大城光璃
- 清水繪大 中村悠哉
- 澤田健 日高悠亮
- 吉田渚人 都野井悠羽
- 松行美宇 伊藤奏
- 大野純平 藤代有陽
- 関山碧志 藤淵凌久
- 熊沢瑠月 木田凪風
- 尾村文哉 岩藤風々葉
- 羽鳥叶大 深江風咲
- 渡邊珠梨 斧原佳督
- 工藤汐夏 橋本結真
- 中嶋玲雄 古元優真
- 國友詩生 松元優真
- 鈴木優華 吉本光希
- 山崎風花 高原大稀
- 熊野芽依 西谷明莉
- 馬場和花 村井睦
- 日江井和生 山本文彦
- 岡井亮真 三村利々依
- 若林瑞季 北口優吏
- 松尾空 濱川はな
- 木井青 緒方蒼
- 渡邊颯音 川手玲奈
- 上田惺介 古川真叶
- 長田玄 中山怜
- 川口陽菜 信夫創至
- 樋口心晴 大和田一花
- 横山喜大 濱口侑希
- 結城城博 近藤緋海
- 五十嵐なぎほ 田中己由奈
- 廣田愛那 古別府乃咲
- 南部愛菜 野田はな
- 門井里紗 高島唯未
- 久保田琥陽 和田十登
- 永島千聖 山田結菜
- 森 葉 和田十登
- 小田玲 唐崎聖悠
- 糸川十叶 奥村一慶
- 岩淵咲陽 佐々木ひかり
- 沼虎未來 加曾利昂
- 久保湖乃 渡邊恵美理
- 青柳咲良 沼虎太郎
- 櫻村愛 仁科晴翔
- 大城光璃 幡本粹偉
- 中村悠哉 飯島乃蒼
- 日高悠亮 藤井創業
- 都野井悠羽 桂蒼生
- 伊藤奏 藤井蒼大
- 藤代有陽 矢口貴隆
- 藤淵凌久 田中蒼葉
- 木田凪風 山中蒼葉
- 岩藤風々葉 二階堂斗貴
- 深江風咲 榎うみ
- 斧原佳督 瀬山寛翔
- 橋本結真 岩佐佑果
- 古元優真 山本絢文
- 松元優真 鈴木結宇
- 吉本光希 福島旺亮
- 高原大稀 西村紫乃
- 西谷明莉 高木凛乃
- 村井睦 高木文乃
- 山本文彦 丸山哲慎
- 三村利々依 谷野心細
- 北口優吏 千葉弘登
- 濱川はな 堀川佳佑
- 緒方蒼 近藤凜空
- 川手玲奈 吉岡真碧
- 古川真叶 浅井ひなの
- 中山怜 根井野泰生
- 信夫創至 喜々津和花
- 大和田一花 山腰叶莉
- 濱口侑希 小村朱寿
- 近藤緋海 児玉望月葵
- 山本恵理 秋永光
- 前田紗奈 藤原礼
- 藤原礼 齋藤世彩
- 西倉咲夏 千葉莉央奈
- 佐々木想太 古木晴道
- 古瀬鈴 市野美葉
- 伊藤麗七 内田瞳子
- 内田瞳子 水野愛理
- 水野愛理 宮田陽
- 宮田陽 瀧野快心
- 瀧野快心 所明宏
- 所明宏 廣瀬恵理空
- 廣瀬恵理空 香澤怜久
- 香澤怜久 ロバート澗
- ロバート澗 門桃子
- 門桃子 山戸佳子
- 山戸佳子 常盤蓮子
- 常盤蓮子 佐藤光
- 佐藤光 松本叶空
- 松本叶空 古川虎河
- 古川虎河 古川瑞希
- 古川瑞希 角田仁希
- 角田仁希 藤本美波
- 藤本美波 二戸翔平
- 二戸翔平 鈴木紫千
- 鈴木紫千 落合律
- 落合律 高野なつめ
- 高野なつめ 山口夏結
- 山口夏結 櫻木勇人
- 櫻木勇人 田口夏結
- 田口夏結 山崎飛澄
- 山崎飛澄 水野詩麻
- 水野詩麻 清野月泉
- 清野月泉 関根理紗
- 関根理紗 前田夏奈
- 前田夏奈 住吉杏奈
- 住吉杏奈 大野喜子
- 大野喜子 加藤樹
- 加藤樹 鷹取広悠
- 鷹取広悠 内山優彩
- 内山優彩 渡邊彩羽
- 渡邊彩羽 坂尻世蘭
- 坂尻世蘭 古次絢
- 古次絢 西尾奏汰
- 西尾奏汰 上原美杏
- 上原美杏 荒井仁那
- 荒井仁那 高瀬風花
- 本橋宗一郎 橋村芽生
- 谷垣縁 古河雛
- 馬場来実 三橋虹太
- 山本紬葵 相馬希乃花
- 中川朝陽 杉山大知
- 千葉莉央奈 戸田笙元
- 中村曉 戸田つぐみ
- 市野美葉 小松大翔
- 島田都希 樋口蒼人
- 大石川眺 真下智帆
- 中戸拓哉 川崎木晴
- 風間日陽 酒井優弥
- 中村芽依 渡邊湊
- 川那辺いろは 佐々木湊都
- 角泉美 成田周真
- 櫻河翠 植木青取
- 大澤クレア 友湖煌大
- 高橋渚音 坂本悠一
- 武藤沙来 小田菜月
- 渡邊美杜 金山楓真
- 岩井梨奈 金山芽衣花
- 高橋玖奈 福田真史
- 石川雅貴 宮藤千敵
- 佐藤舞歩 中村拓誠
- 金子暖 高山歩
- 奥環環 日吉楼成
- 内林哲也 中村伊杜
- 藤本美波 田邊叶人
- 双木翔太郎 兼田唯央
- 内藤壮汰 草村彩月
- 藤田桂輔 渡邊綺斗
- 藤邊綺斗 横山未怜
- 横山未怜 横山瑠香
- 森田ほまれ 小林ゆう
- 渡邊敬太 磯崎恵信
- 高野なつめ 高澤咲夏
- 山口夏結 岩白陸杜
- 山崎飛澄 市川優太
- 水野詩麻 井上稀遥
- 清野月泉 山本侑奏
- 関根理紗 高木紫風
- 前田夏奈 水野結香
- 住吉杏奈 鳴海果耶
- 大野喜子 水山絢葉
- 加藤樹 田代颯人
- 鷹取広悠 田中湊翔
- 内山優彩 阿部アサ
- 渡邊彩羽 福田紗千
- 坂尻世蘭 齋藤明澄
- 古次絢 関森美衣
- 西尾奏汰 坂本莉
- 上原美杏 本多莉歩
- 荒井仁那 中村蒼央
- 高瀬風花 橋村芽生
- 林田莉央士 西岡孝太
- 野口彰志 若狭彰志
- 野口桃花 クラース琉生
- 石像青嶺 石本仁柳
- 三浦柚葉 矢口晴琉
- 上城玲里 坪井咲空
- 内山悠悠 多田雅
- 岩田奈実 山田悠里
- 川柳悠里 久永瑛未
- 山口小葉 會澤碧
- 安井怜真 大木帆鳥
- 佐々木帆鳥 大槻葉由
- 須藤功樹 渡部八雲
- 渡部八雲 井井あお
- 發知音葉 荻野想生
- 荻野想生 白井太一
- 五藤一晴 北田利彩
- 渡邊葵衣 富樫愛葵
- 庄司一葉 篠虎木裕
- 竹田愛菜 清水陽向
- 佐藤鈴夏 宮田心遥
- 小林心遥 浅野蒼
- 山内翠 多喜丸乃
- 渡邊晴 鈴木萌夏
- 渡邊晴 杉本涼真
- 木村文乃 富田知花
- 牛嶋太陽 川台桓太
- 太田莉夢

どんぐり通信

おおかやようちえん

教諭 藤沼里花

大宮幼稚園の秋といえば、運動会、お芋掘りに、遠足、最後は作品展です。年長組は切画師の風祭先生にお越しいただいて、毎年の伝統になっている『切画教室』でご指導を受けます。

機会をいただきました。ご挨拶をして、説明を真剣に聞きながらお手本を見せていただきました。「目をつむって心に浮かんだ一文字を決めましょう。」とお話があると、「もう決めてた!」という子や、「漢字に挑戦してみたいな。」という子もいて、しっかりと自分の心で考え、決めることが出来ました。いよいよ画用紙に鉛筆で書き、カッターに挑戦! 紙を押さえる手は紙の上のほうに置くこと、刃先が曲がらないように、怪我をしないようにと確認しながら真剣な表情で取り組む姿が見られました。文字を切り抜いた画用紙に和紙やいろいろな色の画用紙を貼り、色紙に貼って完成です。先生やお友だちの前で、どうしてこの文字を選んだのかを発表する時間があります。

子どもたちは「難しいところはなかった!」と誇らしげに話し、またひとつ新しいことを教えていただき、短い時間の中で成長した姿を見せてく



れしました。そして、年長組の作品がもう一つ。今年は鉛筆で自分の顔をデッサンして絵の具で塗り、その横に自分のことを詠んだ川柳を考えて書きました。鏡で自分の顔をじっくりと観察し、本物を見たままを紙に書くことに苦戦していました。目鼻耳の形やほくろの場所などをよく見ながら描き、また観察をしてというように一生懸命取り組んでいました。せつかく描いた鉛筆の線が消えないように自分で絵の具を混ぜ、薄く塗りました。「目はちよつと茶色っぽい」「唇はもつと赤っぽいピンク」と思い思いに絵の具を混ぜて、自分なりに色を作り塗って出来上がり。そして、川柳は5・7・5の文字に言葉を当てはめようと毎日指折り言葉を考え考えていた子どもたち。「べにしようが かけてたべたい ギゅうどんだ」「いもうとが だいたすきなんだ おにいちゃん」「わたしはね ポー ルがとくい すごいでしょ」それぞれの川柳はその子をよく表していて、とても素敵な作品になりました。この作品展を通して専門の先生に芸術を教えてください、初めてのものに触れたり、「難しい」と感じることに諦めずに最後まで挑戦したりと、子どもたちの力がぐんと大きくなったのが伝わってきました。

年が明けると年長組にとっては幼稚園最後の3学期が始まります。残りの園生活でもたくさんのお話を聞いて、小学校進学に向けての準備をして、大宮八幡宮の神様に見守っていただけることに感謝をしながら過ごしていきたいと思えます。



- 後藤陽向 中野友心 加藤陽葵 竹内悠翔 松原榎万 磯貝優月 阿部芽生
- 小林芽生 中野七心 稲葉理仁 山本頼直 高松秋花 岩井蒼空 阿部朱莉
- 吉岡葉渚 田中美優奈 川久保星南 森紫央 若宮琉斗 瀨尾月乃 小沢桔平
- 鈴木峻世 大森侑真 大嶋海翔 山元瑛司 正埜日茉莉 島田夏帆 沖田結花
- 後藤莉帆 安藤薫来 米澤和奏 富永虹聖 水東祐祐 中村胡秋 佐藤朝夏
- 中尾太珂 手束祐海 金個美海 高原里帆 平田碧 石井柳 富川玲
- 井開衣音 左野愛来 渡部愛美 高橋椋叶 小林あさひ 富岡陸斗
- 小茂田真衣 眞見木乃香 小川詩 飯田千夏 飯野迅 飯野迅 山本幸太郎
- 小池詩 安藤董 今吉理乃 小宮暖生 飯野唯 後藤颯人 矢島京梧
- 鈴木陽葵 谷次權成 石川楓太 石川叶真 國政匠真 國政寿輝 市川湊
- 藤本航希 大野蓮斗 石川叶真 國政匠真 國政寿輝 市川湊 宮原永菜
- 本田知輝 服部楓大 吉田航 佐々木涼風 石堂想来 伊東琥陽 新谷梨里花
- 森晴紀 岩下蓮 新谷梨里花 小島二心 神原蒼馬 鶴丸凌也 三谷涼葉
- 青山聖奈 中田楓真 網嶋翠 石原一華 大塚陽斗 大井絢音 西村有紗
- 小川啓斗 影山耀 松野伶南 野村蒼汰郎 清水都希 篠崎陽向
- 笹田倫希 山下葵奈 三五日葵 鳴瀬杏葉 田中春丞 中山凛
- 日下凛 後藤凛 安藤晴 新保伶加 大澤橙輝 大澤橙輝
- 中野友心 加藤陽葵 竹内悠翔 松原榎万 磯貝優月 阿部芽生
- 中野七心 稲葉理仁 山本頼直 高松秋花 岩井蒼空 阿部朱莉
- 田中美優奈 川久保星南 森紫央 若宮琉斗 瀨尾月乃 小沢桔平
- 大森侑真 大嶋海翔 山元瑛司 正埜日茉莉 島田夏帆 沖田結花
- 安藤薫来 米澤和奏 富永虹聖 水東祐祐 中村胡秋 佐藤朝夏
- 高原里帆 平田碧 石井柳 富川玲 富岡陸斗 飯田千夏
- 左野愛来 渡部愛美 高橋椋叶 小林あさひ 富岡陸斗 飯野迅
- 眞見木乃香 小川詩 飯田千夏 飯野迅 山本幸太郎 矢島京梧
- 小茂田真衣 眞見木乃香 小川詩 飯田千夏 飯野迅 山本幸太郎
- 小池詩 安藤董 今吉理乃 小宮暖生 飯野唯 後藤颯人 矢島京梧
- 鈴木陽葵 谷次權成 石川楓太 石川叶真 國政匠真 國政寿輝 市川湊
- 藤本航希 大野蓮斗 石川叶真 國政匠真 國政寿輝 市川湊 宮原永菜
- 本田知輝 服部楓大 吉田航 佐々木涼風 石堂想来 伊東琥陽 新谷梨里花
- 森晴紀 岩下蓮 新谷梨里花 小島二心 神原蒼馬 鶴丸凌也 三谷涼葉
- 青山聖奈 中田楓真 網嶋翠 石原一華 大塚陽斗 大井絢音 西村有紗
- 小川啓斗 影山耀 松野伶南 野村蒼汰郎 清水都希 篠崎陽向
- 笹田倫希 山下葵奈 三五日葵 鳴瀬杏葉 田中春丞 中山凛
- 日下凛 後藤凛 安藤晴 新保伶加 大澤橙輝 大澤橙輝
- 中山凛 後藤凛 安藤晴 新保伶加 大澤橙輝 大澤橙輝
- 日下凛 後藤凛 安藤晴 新保伶加 大澤橙輝 大澤橙輝
- 鳴瀬杏葉 田中春丞 中山凛 日下凛 後藤凛 安藤晴 新保伶加
- 田中春丞 中山凛 日下凛 後藤凛 安藤晴 新保伶加 大澤橙輝
- 中山凛 日下凛 後藤凛 安藤晴 新保伶加 大澤橙輝 大澤橙輝
- 後藤凛 安藤晴 新保伶加 大澤橙輝 大澤橙輝
- 安藤晴 新保伶加 大澤橙輝 大澤橙輝
- 新保伶加 大澤橙輝 大澤橙輝
- 大澤橙輝 大澤橙輝

もり
**緑豊かな都心の杜で
絆深める和婚式**

成人式 卒業式 衣装・美容着付・写真・初宮饗膳(ご会食)など承ります。

清涼殿 03(3312)7515

結婚式挙式者芳名(敬称略)
(令和4年9月1日~12月31日)

中山敦史・彩名 大坂広之・サルバ
中里和紀・亜美

- 中瀬航 角田(アール) 福田慧祐 磯崎笑菜
- 今田結菜 朝倉琉 蘆塚昂 風間詩音
- 高麗未乃 吉田紗菜 石塚椰起 後藤叶羽
- 新井結月 野刈咲也子 小川朝陽 高鍋留夏
- 仙北都夏 高田千晴 中島れい 宮澤快成
- 長澤楓 二関岳詩 大森千明 皆川留季
- 川嶋ひかり 松岡弦音 宇佐見丹梨 岩本怜也
- 田村海桐 本谷美桜 瀬谷祐斗 島津碧
- 山本昊空 今井里音 矢部まど花 岸本紘
- 水池愛莉 江刺家つむぎ 伊藤穂乃里 岸本紘
- 赤嶺結 杉本詠羽 福井悠聖 田中律人
- 田淵一真 飯濱日心 藤原志成 竹内律人
- 植本汐夏 土井柊弥 今野巧喜 野口結弓
- 田島颯真 矢島もも 小嶋真緒

戌の日早見表
(令和5年1月~5月)

| | | | | |
|--------|--------|--------|--------|--------|
| 5月 | 4月 | 3月 | 2月 | 1月 |
| 4日(木) | 10日(月) | 5日(日) | 9日(木) | 4日(水) |
| 16日(火) | 22日(土) | 17日(金) | 21日(火) | 16日(月) |
| 28日(日) | | 29日(水) | | 28日(土) |

は大安の日です



**戌の日詣りは
聖母大神・子育て八幡さまの当宮で
安産祈願祭を!**

※戌の日以外でも随時お受けしております
ご祈願の方には安産腹帯(天宮八幡息長帯)と共に、へその緒で結ばれたお母様とお子様様が健康にご出産の時を迎えられますようにとの願いが込められた「母子緒守」と「安産祈願絵馬」を特別に授与しております。



すがすが
新春にはご祈願をお受けになり、清々しい1年に致しましょう
 (新春初祈願祭は、2月3日の節分までご奉仕致します。)



新春初祈願祭受付



参列席を拡張しています



新年のお守りを受けます

(祈願祭受付及び授与所は感染対策として、アクリル板または透明ビニールのカーテンを設け、職員はマスクを着用させて頂きます。)



当宮ではInstagramで境内の写真や行事などの写真なども公開しております。

大宮八幡宮のInstagram



スマートフォンからは、左のQRコードを読み取ってご覧頂けます。



大宮八幡宮オンライン授与所

大宮八幡宮のホームページでは、コロナ禍や遠方にお住まいなど、やむを得ず当宮にお越しになれない方のためにオンライン授与所を開設しております。他にも祭典・行事の情報や、当宮の新型コロナウイルス対策の情報を発信しております。スマートフォンからもご覧頂けます。

大宮 第125号
令和5年新春号
 令和5年1月1日発行
大宮八幡宮社務所
 〒168-8570
 東京都杉並区大宮2-3-1
 電話(3311)0105 FAX(3318)6100
 Mail : info@ohmiya-hachimangu.or.jp

